



立坑櫓のすぐわきにあるガイダンス施設内。炭鉱の歴史にかかわる約200点の貴重な資料を見ることができる



ロードヘッダー。先端部分が回転して坑道を掘削していく。これも日本製



# 日本遺産： 北の産業革命 赤平で日本

立坑櫓内部へはガイド付き見学でどうぞ



表紙：赤平市の炭鉱遺産の代表的な施設立坑櫓ヤード（操車場）内。立坑櫓はエレベータの機能を持つ運搬施設で、4段のケージ（エレベータ）で、炭鉱マンや炭車（トロッコ）を地下615mの深さまで運んだ。昭和38年から閉山までの31年間、使われた

目次：25年にわたって採炭や坑内係員、救護隊で活躍した元炭鉱マン三上秀雄さん（70歳）のガイドで、立坑櫓の





赤平市には日本遺産「炭鉄港」構成文化財の一つ住友赤平炭鉱立坑櫓・周辺施設や北炭赤間炭鉱ズリ山などがあります。

「炭鉄港」は、空知の炭鉱、室蘭の鉄鋼、小樽の港湾、これらをつなぐ鉄道など、北海道の発展に大きく貢献した北海道の産業革命を具体的に今日に伝え、その魅力を未来へ発信する文化財です。

昭和13（1938）年の開坑から北海道の石炭産業に55年の長きにわたって歴史を刻んだ赤平炭鉱は、平成6年に閉山しました。

日本の発展を支え北海道の今を形作ってきた物語を、現地で味わってみませんか。

ドラムカッター。坑内で石炭を採掘するために炭層を掘削する機械。これは日本製（三井三池製作所）で夕張新鉱から購入、約15年にわたって使用された

# 「炭鉄港」 の歩みを知る

建屋内部や、炭鉱の坑内で使われていた大型機械が展示されている自走柵工場などを見学できる

裏表紙：切り絵のような姿を見せる立坑櫓。高さ43.8m、直径5.5mの巻き上げ機2基を支えている。615mの深さまで鉱員を送る一方、採掘した石炭を引き上げるのにも使われ、その技術は東洋一とうたわれた。この立坑の完成により、生産量は100万tから200万tに倍増した



坑内から出る岩石など（ズリ）をトロッコなどで積み上げてできたズリ山。777段の日本一の長い階段を上ると、赤平の町が一望できる